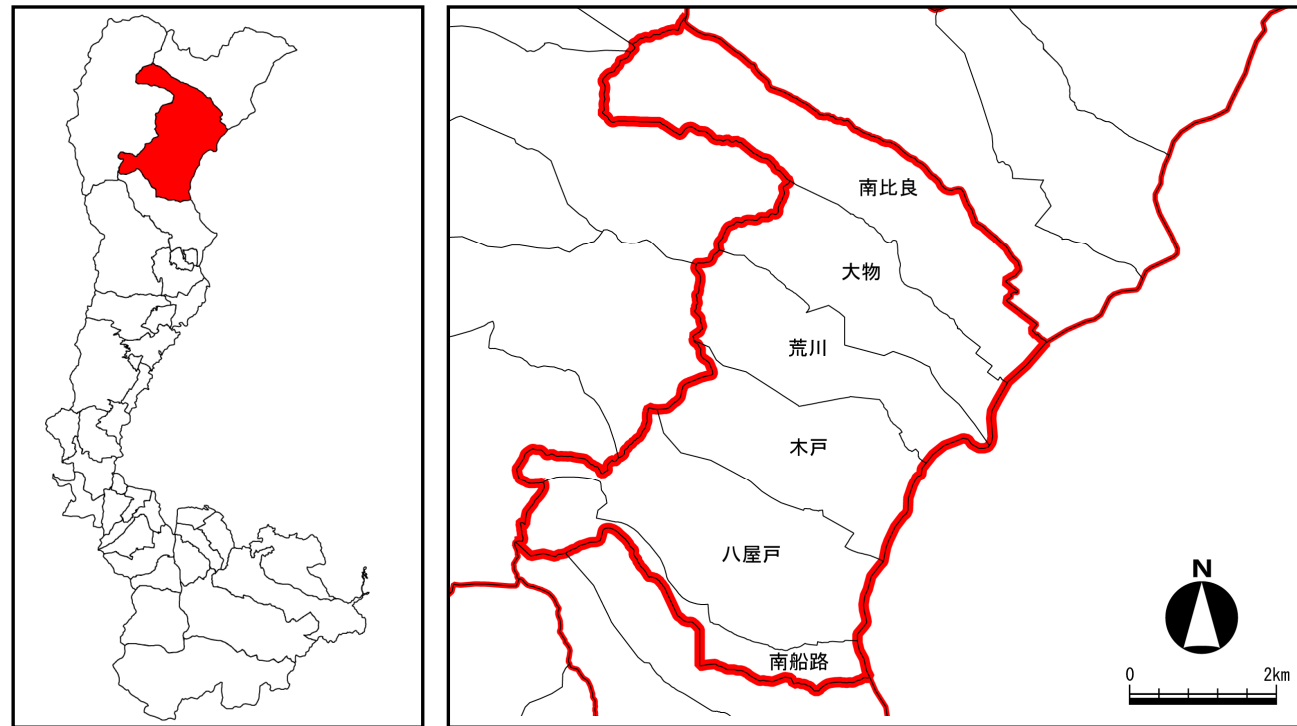


■ 学区の概況



<町丁名>

南船路、八屋戸、木戸、荒川、大物、南比良

(注) 学区界や町丁名は、統計や編集の都合により必ずしも通学区域等とは一致しない場合がある。また、記載の町丁により、避難所等を割り当てるものではない。

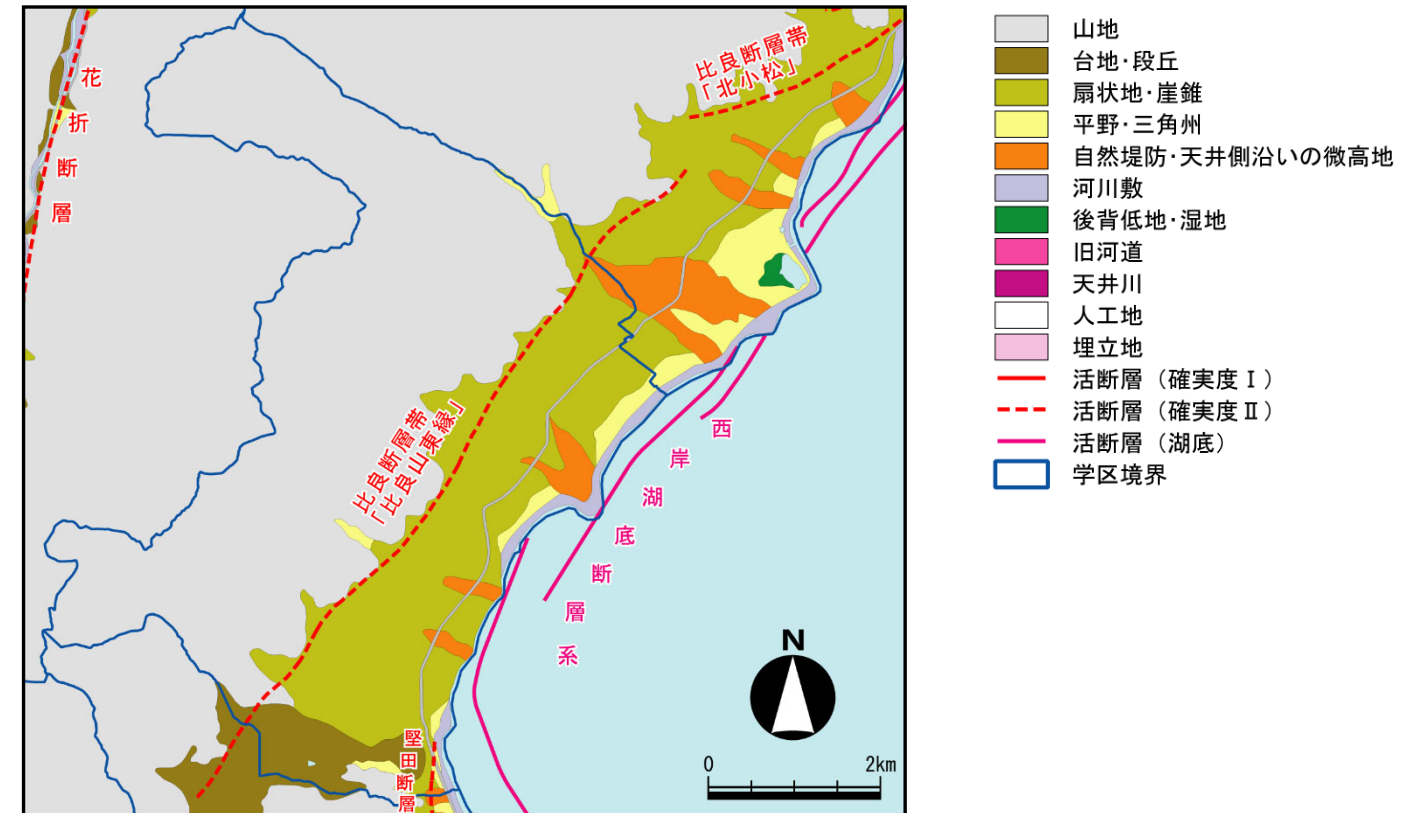
<学区の特徴>

木戸学区は、JR 志賀駅を中心に北消防署志賀分署などの公共施設が集まっている。平地は少なく、扇状地などの傾斜地を利用した棚田が多い。

木戸出身の志賀清林は奈良時代の朝廷に仕えた人物で、相撲の基礎を築いたとして知られている。

木戸学区の中央には清林パークが整備され、人々の憩いの場になっている。また、学区西部の比良山系には比良岳 (1,051m) や蓬萊山 (1,174m) があり、多くの登山者が訪れている。蓬萊山北側のびわ湖バレイスキー場は京阪神からもアクセスがよく、賑わいを見せている。

■ 地形・地質の概要



(注) 図中の地形・地質については、地震防災アセスメント基礎情報調査を行った時点のものである。  
出典：志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

<地形の特徴>

- 木戸学区の北西部は山地であり、比良岳や蓬萊山など、1,000m を越える山々が分布している。
- 山地からは大谷川や木戸川、野離子川などの河川が流れており、山地の前面には扇状地が広く形成されている。
- 湖岸部には自然堤防が形成されている。
- 平野は湖岸沿いにわずかに見られるのみである。

<地質の特徴>

- 蓬萊山など南部は丹波帯と呼ばれる中生代の地層からなる。丹波帯は海洋性起源の岩石と陸源性の碎屑岩からなる地層で、近畿地方の北部に広く分布している。
- 比良岳など北部の山地は主に比良花崗岩からなる。これは中生代白亜紀後期の火成活動により形成された岩石である。
- 学区の南部は堅田丘陵の北部に相当する。堅田丘陵は、約 100 万年前以降に形成された淡水成の地層 (古琵琶湖層群堅田累層) からなる。

<活断層の特徴>

- 比良山地の東縁には比良断層帯が分布している。これは高島市鶴川から和邇学区の栗原まで延びる長さ約 16km の活断層で、断層を挟んで相対的に北西側が隆起する逆断層である。
- 堅田断層は南船路から比叡辻までのびる、長さ約 13km の活断層で、断層を挟んで相対的に西側が隆起する、縦ずれ断層である。
- 湖底には湖岸線に沿うように西岸湖底断層系が分布する。



■ 建物の状況

町丁名	住宅密集度 (戸/ha) <sup>(注1)</sup>	不燃領域率 (%) <sup>(注2)</sup>	木造率 (%)	旧耐震木造建物 /木造建物 (%)
南船路	50.7	98.1	64.6	54.3
八屋戸	39.3	96.1	77.0	49.4
木戸	45.6	96.5	70.3	51.3
荒川	38.3	97.3	68.8	37.8
大物	40.8	96.6	75.1	48.5
南比良	47.5	98.5	72.8	58.4
学区平均	42.4	97.2	72.7	49.8
出典	1, 2	1, 2	2	2

(注) 表中の数値は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

(注1) 市街化区域を対象とした

(注2) 算出の際に用いる区域面積・空地面積・宅地面積は便宜上、市街化区域及び市街化調整区域の面積を使用した。

出典 1：大津湖南都市計画基礎調査（H30.2）土地利用現況

2：資産税データ（R4.4）

■ 人口の状況

項目	人口等	単位	備考	割合 (%)	出典
学区人口	4,553	人		—	1
年齢別（0～4歳）	121	人	学区人口に対する割合	2.7	1
年齢別（5～14歳）	375	人	学区人口に対する割合	8.2	1
年齢別（15～64歳）	2,543	人	学区人口に対する割合	55.9	1
年齢別（65歳以上）	1,514	人	学区人口に対する割合	33.3	1
年齢別（75歳以上）	756	人	学区人口に対する割合	16.6	1
世帯数	2,028	世帯		—	2
1世帯当たり人口	2.2	人/世帯		—	2
要介護認定者	294	人	学区人口に対する割合	6.5	3
身体障害者（要配慮者）	69	人	学区人口に対する割合	1.5	4
知的障害者（要配慮者）	10	人	学区人口に対する割合	0.2	4
外国人居住者	58	人	学区人口に対する割合	1.3	5

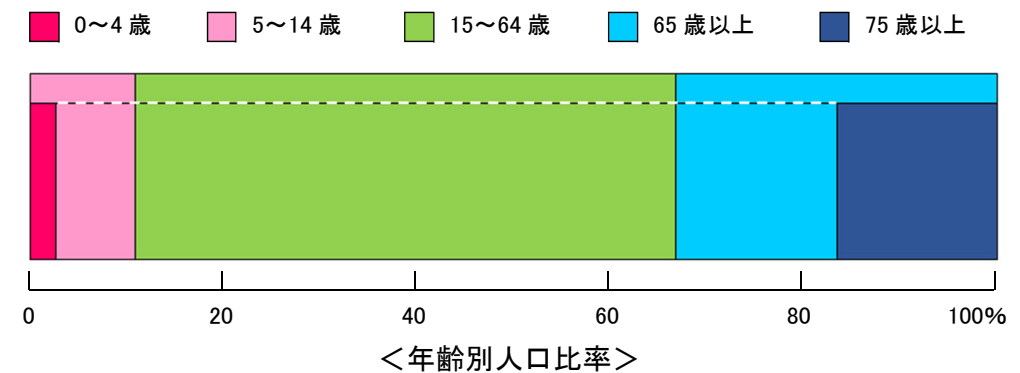
(注) 1世帯当たり人口、学区人口に対する割合は、小数点以下第二位を四捨五入した値である。

出典 1：年齢別・学区別人口統計表（R4.3.31現在）、2：学区別人口・世帯数の年別推移（R4.3.31現在）

3：学区別要介護認定者（R4.4.30現在）、4：大津市データ（R4.3.31現在）

5：住民基本台帳情報からの統計（R4.3.31）

- 住宅密集度の学区平均は42.4戸/haで市平均（全学区の平均）の59.3戸/haを下回り、市内で2番目に低い。
- 不燃領域率の学区平均は97.2%で市平均の93.9%を上回り、市内で4番目に高い。これは、田畑・山林の占める割合が非常に高いことに起因する。
- 木造率の学区平均は72.7%であり、市平均の72.7%と同じ値である。
- 旧耐震木造建物割合の学区平均は49.8%であり、市平均の40.3%より高い。



- 高齢者（65歳以上）は1514人、乳幼児（0～4歳）は121人であり、学区人口に対する割合はそれぞれ33.3%、2.7%である。
- 高齢者の学区人口に対する割合は市平均（27.2%）より高く、乳幼児の学区人口に対する割合は市平均（3.9%）より低い。
- 要介護認定者は294人（6.5%）、身体障害者（要配慮者）は69人（1.5%）、知的障害者（要配慮者）は10人（0.2%）である。
- 外国人居住者は58人（1.3%）である。

■ 災害関連規制状況

災害関連規制	件数（箇所）、面積	出典
急傾斜地崩壊危険箇所（注1）	15 箇所	1
土石流危険渓流（注1）	15 箇所	1
土砂災害特別警戒区域（注1）（注2）	21 箇所	2
土砂災害警戒区域（注1）（注2）	36 箇所	2
山地災害危険渓流（山腹）（注1）	0 箇所	3
山地災害危険渓流（渓流）（注1）	9 箇所	3
雪崩危険箇所（注1）	0 箇所	4
地すべり防止区域（注1）	0 箇所	5
地すべり危険箇所（注1）	2 箇所	1
浸水想定区域（注3）（0.0m～0.5m）	179,426 ㎡	6
（0.5m～1.0m）	128,271 ㎡	6
（1.0m～2.0m）	60,528 ㎡	6
（2.0m～）	74,192 ㎡	6
特に重要な水防区域（注1）	0 箇所	7
重要水防区域（注1）	2 箇所	7
防災重点農業用ため池（注1）	1 箇所	8

（注1）危険箇所、区域等の件数は他学区にわたって分布するものも含む。

（注2）複数の区域をまとめて1つの警戒区域として公示されている場合があるが、ここではまとめられた複数の区域を単独の区域として計上したため、公示された区域数と異なる。

（注3）浸水想定区域は、琵琶湖の水位がB.S.L. +2.6mまで上昇した場合を想定しており、雨の降り方や水位の状況により浸水深は想定と違う場合がある。

出典 1：滋賀県砂防課（R3.7.16） 2：滋賀県砂防課（R3.2）

3：滋賀県森林保全課（R3.11） 4：滋賀県砂防課（H24.12） 5：農林振興課、砂防課（H24.12）

6：淀川水系 洪水浸水想定区域図（想定最大規模）（瀬田川上流：H31.3.19、瀬田川下流：H29.3.21、琵琶湖：H31.3.19、草津川：R1.10.1、大戸川：H31.3.19）

7：琵琶湖河川事務所（R2.6） 8：大津市産業観光部（R3.12）

<防災上の特性>

- 木戸学区は大部分が山地、もしくは穏やかに琵琶湖に傾斜した扇状地であり、土石流危険渓流に指定されている渓流が多数分布している。
- 急傾斜地崩壊危険箇所や地すべり危険箇所に指定されている斜面も存在する。これらの斜面や渓流では、豪雨時の斜面災害や土砂災害に留意する必要がある。地震時には、これらの斜面で崩壊が発生して2次的災害が発生する可能性もある。
- 木戸市民センターや北消防署志賀分署、避難場所の木戸小学校など、多くの公共施設が土石流危険渓流の影響範囲内に位置しており、災害時の対応について注意が必要である。
- 山地と扇状地との境界には比良断層帯が通過し、琵琶湖底には西岸湖底断層系が通過している。これらの断層が直接活動した場合には、断層の周辺部に大きな地表変位が生じる可能性があるが、直接活動しない場合においても、地震動（地震の揺れ）によって、断層通過部付近では、揺れが増幅して周辺より被害が大きくなる可能性がある（このような現象は兵庫県南部地震時にも見られている）。
- 琵琶湖岸では琵琶湖の水位上昇による浸水想定区域が広くみられる。とくに大物、荒川地区では浸水深が2.0mを超えると想定される箇所がある。
- 湖岸部では液状化に対する備えも必要である。

■ 防災関連施設情報

<指定緊急避難場所・指定避難所>

種類	名称	対象とする災害の種類				所在地
		土砂	洪水	地震	火災	
指定緊急避難場所	木戸小学校グラウンド	○	○	○		荒川 1000
	志賀中学校グラウンド	○	○	○		南船路 1029
指定緊急避難場所 兼 指定避難所	木戸市民センター	○	○	○		木戸 58
	木戸小学校体育館	○	○	○		荒川 1000
	志賀中学校体育館	○	○	○		南船路 1029
	志賀北幼稚園	○	○	○		荒川 880
指定避難所	志賀中学校武道場	—				南船路 1029

（注）指定緊急避難場所：災害の危険から逃れるための施設又は場所。災害種別ごとに指定。

指定避難所：避難された方等に一定期間滞在してもらうための施設。

※（福）印は、福祉避難所を示しており、要配慮者の状況により開設します。

<市関連機関>

名称	所在地	電話番号
大津市役所	御陵町 3-1	523-1234, 528-2616
木戸市民センター	木戸 58	592-1121

<警察 110>

名称	所在地	電話番号
滋賀県警察本部	打出浜 1-10	522-1231
大津北警察署	真野二丁目 20-23	573-1234
木戸駐在所	荒川 937-2	592-0020

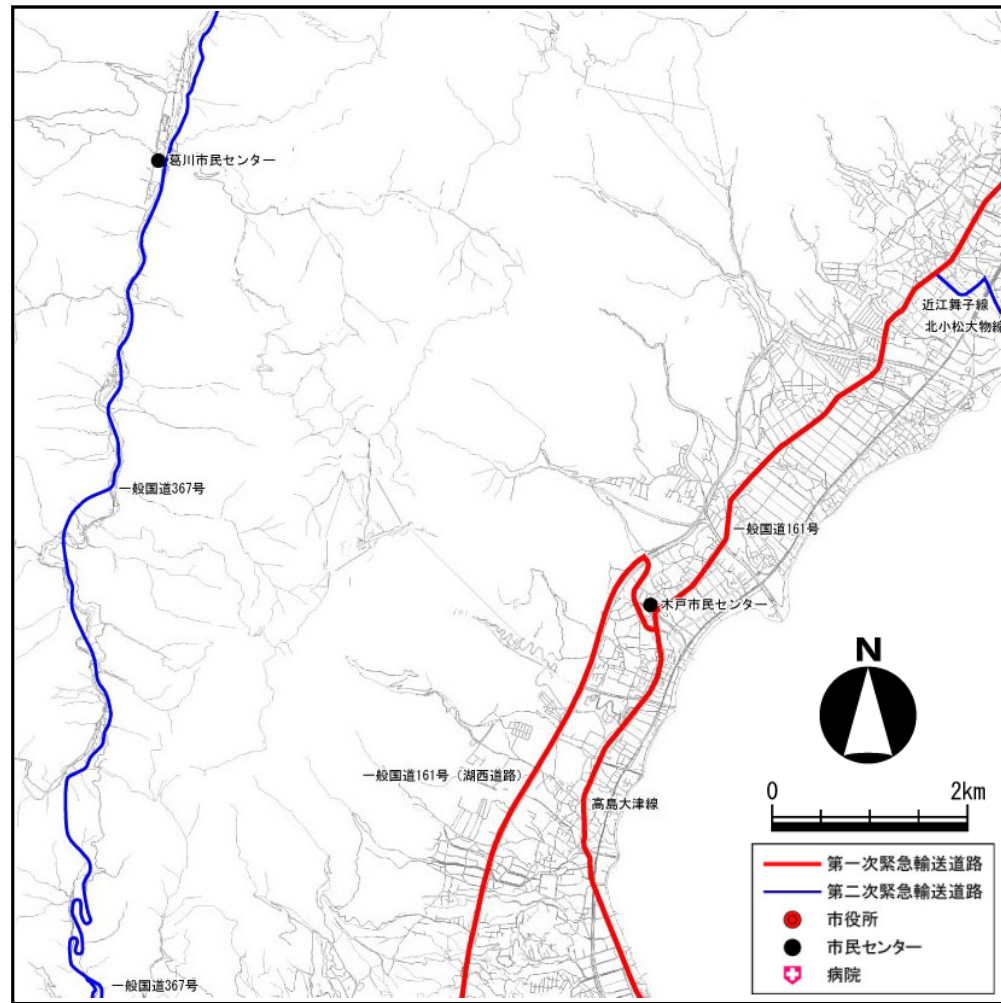
<消防 119>

名称	所在地	電話番号
大津市消防局	御陵町 3-1	522-0119
北消防署	真野二丁目 23-1	572-0119
志賀分署	木戸 58	592-0119
木戸分団	木戸 1010	592-2233





<緊急輸送道路>



(注) 緊急輸送道路とは、大規模災害時に応急対策活動の根幹である「人命の確保」「被害の拡大防止」「物資等を確保」を迅速・確実に図るため、緊急指定する輸送用道路のことであり、公安委員会が認める車両のみが通行可能となる。

<医療施設>

種別	名称	所在地	電話番号
救急告示	基幹災害医療センター	大津赤十字病院	長等一丁目 1-35 522-4131
	地域災害医療センター	大津市民病院	本宮二丁目 9-9 522-4607
病院		大津赤十字志賀病院	和邇中 298 594-8777
		琵琶湖大橋病院	真野五丁目 1-29 573-4321
		滋賀病院	富士見台 16-1 537-3101
		滋賀医科大学附属病院	瀬田月輪町 548-2111

■ 地震災害危険度予測

<地震被害想定結果>

● 琵琶湖西岸断層帯地震

被害想定ケース	建物棟数	人口	建物被害			人的被害								
						死者数			負傷者数			重症者数		
			全壊棟数	半壊棟数	被害棟数	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻	早朝	昼間	夕刻
ケース1	3,113	4,455	1,034	763	1,415	14	9	11	53	32	39	3	2	2
ケース2	3,113	4,455	952	784	1,344	14	9	11	65	39	48	4	2	3
ケース3	3,113	4,455	587	844	1,008	5	3	4	82	48	62	5	3	4

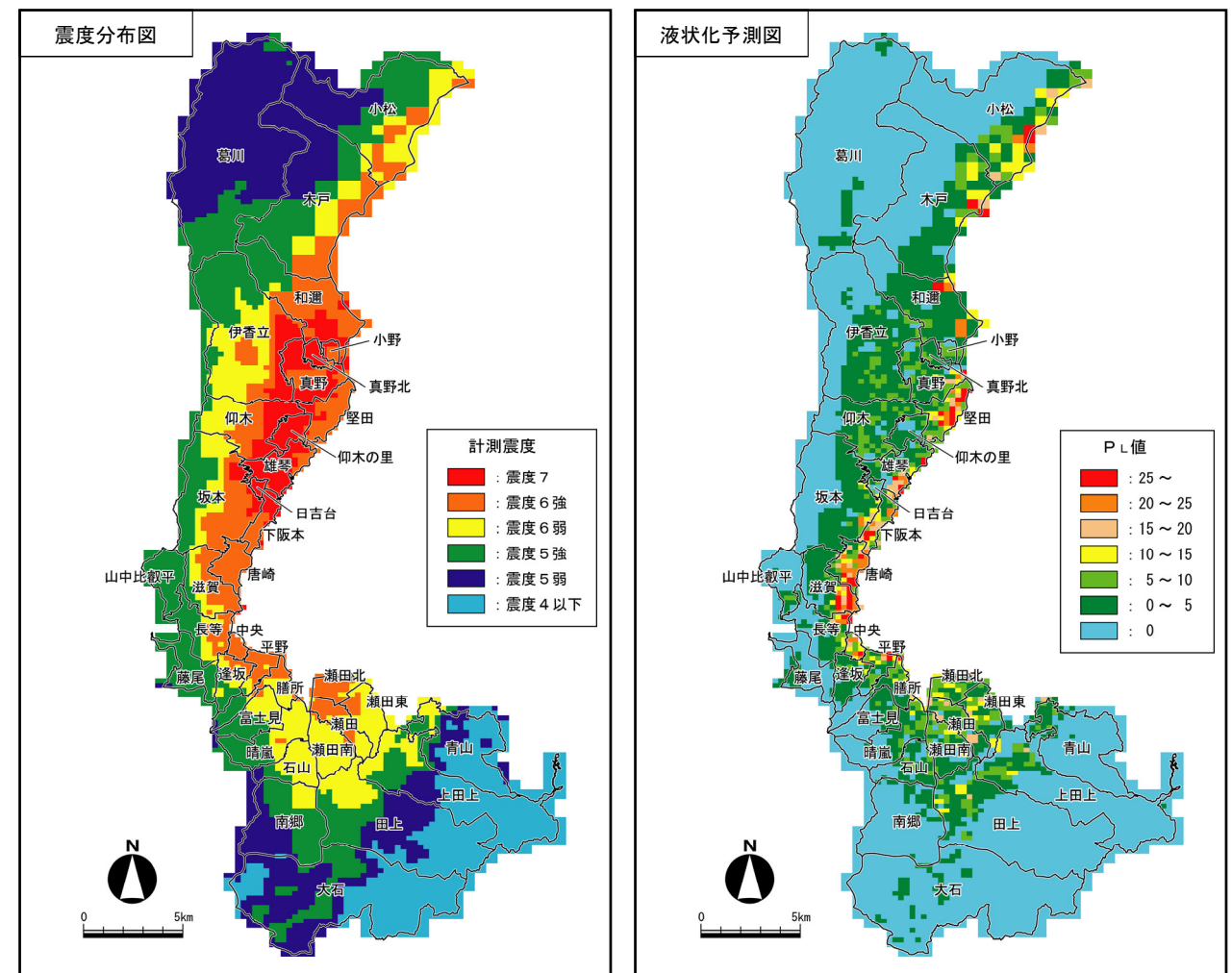
被害想定ケース	地震火災炎上出火件数			生活支障避難者数
	早朝	昼間	夕刻	
ケース1	1	1	1	744
ケース2	1	1	1	721
ケース3	1	1	1	593

(注) 表中の建物棟数及び人口は、地震災害危険度予測を行った時点の数字である。

出典 志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

<震度分布及び液状化予測図>

● 琵琶湖西岸断層帯地震 (ケース2)



出典 大津市防災アセスメント調査業務報告書 (H17.3) (PL ≥ 10 構造物に影響の出る可能性のある液状化が発生)  
PL ≥ 20 激しい液状化

志賀町地震防災アセスメント基礎情報調査業務報告書 (H18.1)

